

富士見市防災環境カルテ
前谷町会

位置番号 4

・概況

前谷町会は、富士見市の中央部に位置し、西側は低地（谷底平野）、東側は新河岸川に面し、水田地帯（氾濫平野）で形成されている。水谷第1町会、水谷第8町会との境界には富士見江川がある。

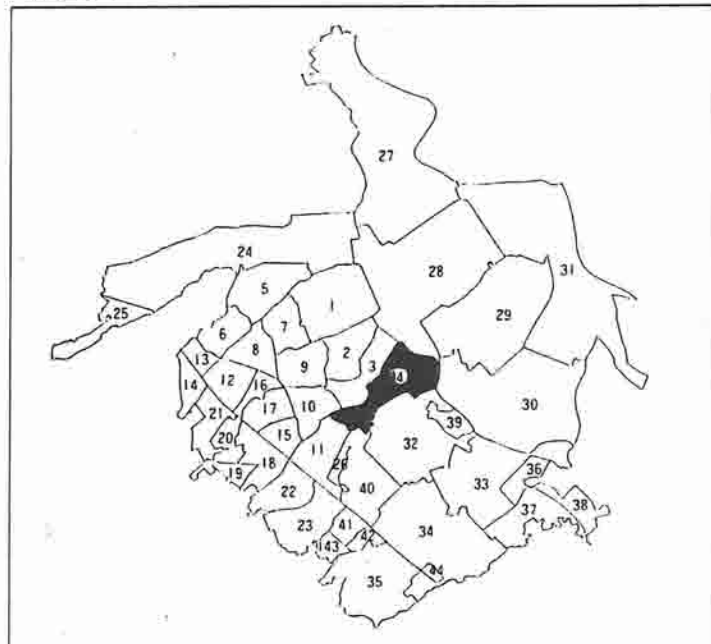
環境は、田園に囲まれた良好な地域である。町会の中央部には水田を盛土して、市立健康増進センター（休日診療所）、川越保健所富士見支所が設置され、市の福祉、健康、衛生施設としてその役割を果たしている。昭和34年以前は家屋数（木造家屋6棟）が少なかった。しかし、昭和34年以降、水田が盛土されて宅地化が進み、ベッドタウン化しているのが現状である。

水害履歴からは、台風に伴う大雨による富士見江川と水田の灌漑用水路の溢水のため、家屋浸水や水田・畑が冠水する内水災害の発生が予想される。

地震災害は、水害の危険性と比較した場合その危険性は低い。

しかし、水田を盛土した住宅地域では液状化が予想される。

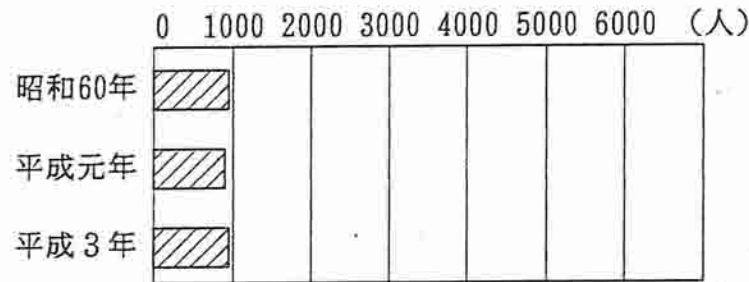
・位置図



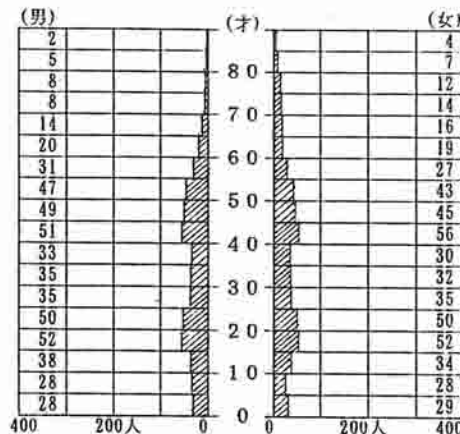
1. 基礎指標

・面積	0.461 km ²
・人口(平成3年10月1日現在)	男 469人 女 501人 計 970人
・人口密度	2,104.1人/km ²
・寝たきり老人数	2人
・ひとり暮らし老人数	5人
・世帯数	293世帯

・人口推移

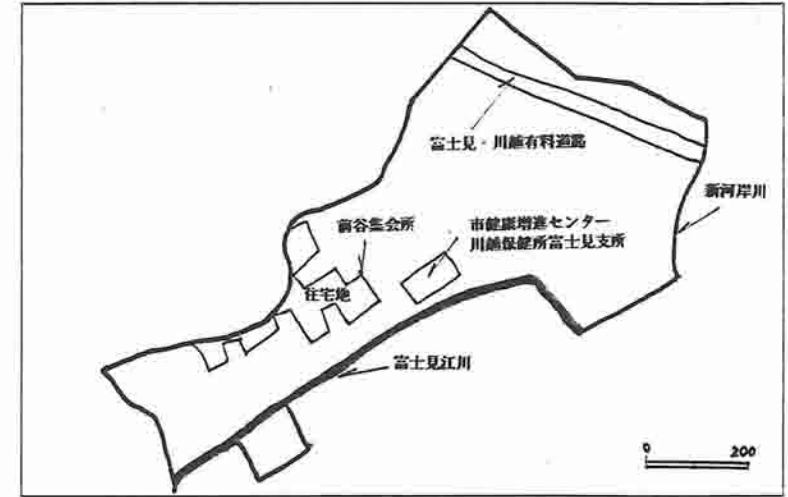


・年齢別人口(平成3年)

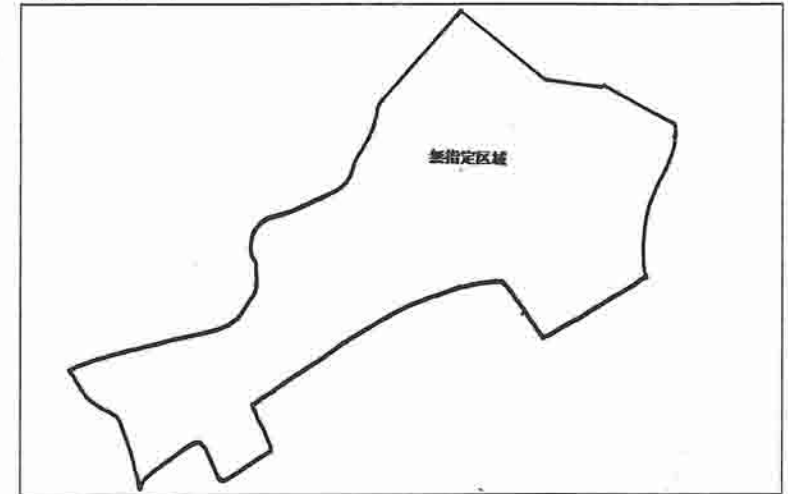


・商住工混在率住居系	97.1%
・店舗系	1.3%
・工業系	1.6%

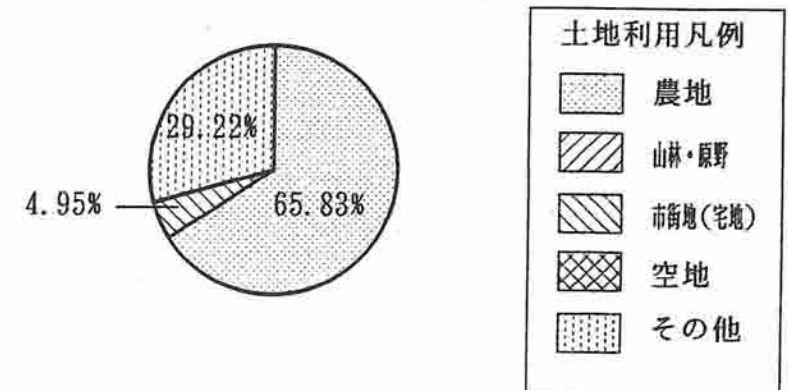
・町会現況図



・用途地域図



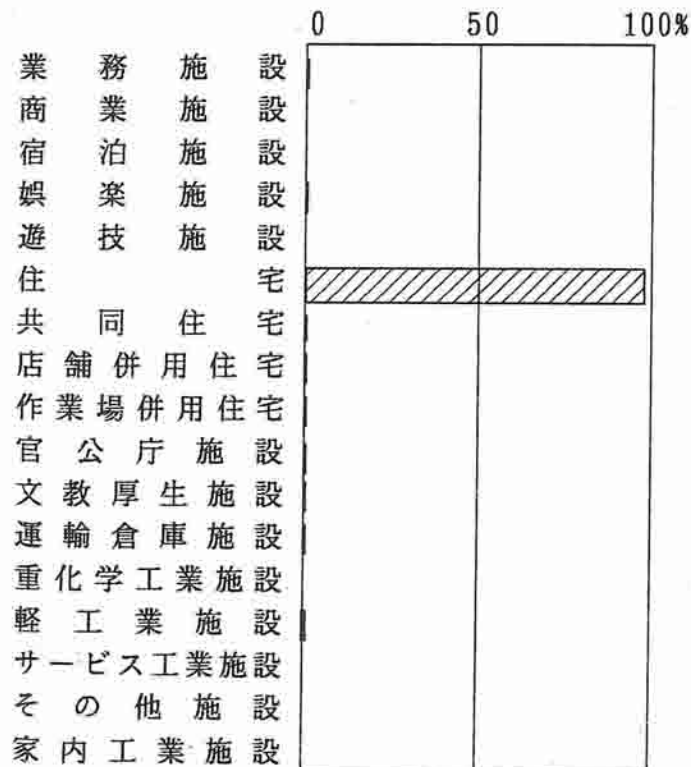
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	411棟
木造建物	385棟
非木造建物	26棟
・建物面積	13,252.85㎡
木造建物	11,682.02㎡
非木造建物	1,570.83㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	96.7%
・木造率	93.7% (385棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	6棟
・同上率	1.6%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	69棟 17.9%
2階以上	316棟 82.1%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	43本 93.2本/㎢
・幹線道路率	4本 8.6本/㎢
・公共空地面積	6,343.0㎡
・公共空地率	1.4%
・1人あたり公共空地	6.5㎡/人
・公共空地内容(*指定避難所)	
名称	面積
1. 高校	0㎡
2. 中学校	0㎡
3. 小学校	0㎡
4. 公園	㎡
5. 市立健康増進センター*	6,343.0㎡

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 所沢市、川越地区消防組合、 応援協定 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	8本
・1消火栓あたり世帯数	36.6世帯/本
・消防水利貯水施設数	1(0)か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(缶18号)	74棟	29棟	か所
平成3年 9月(缶18号)	102棟	26棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年)			0件
・火災出火件数(年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	3か所	前谷住宅ポンプ場 鶴馬3丁目排水ポンプ場 鶴馬2丁目排水ポンプ場
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク

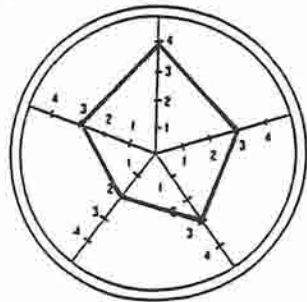
・木造建物被害危険度	3ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	2ランク

地盤	地盤の地震動危険度	3ランク
危険度	液状化危険度	3ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、低地部（谷底平野）で軟らかく、水田地帯（氾濫平野）で軟弱地盤となっている。町会の全地域で震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

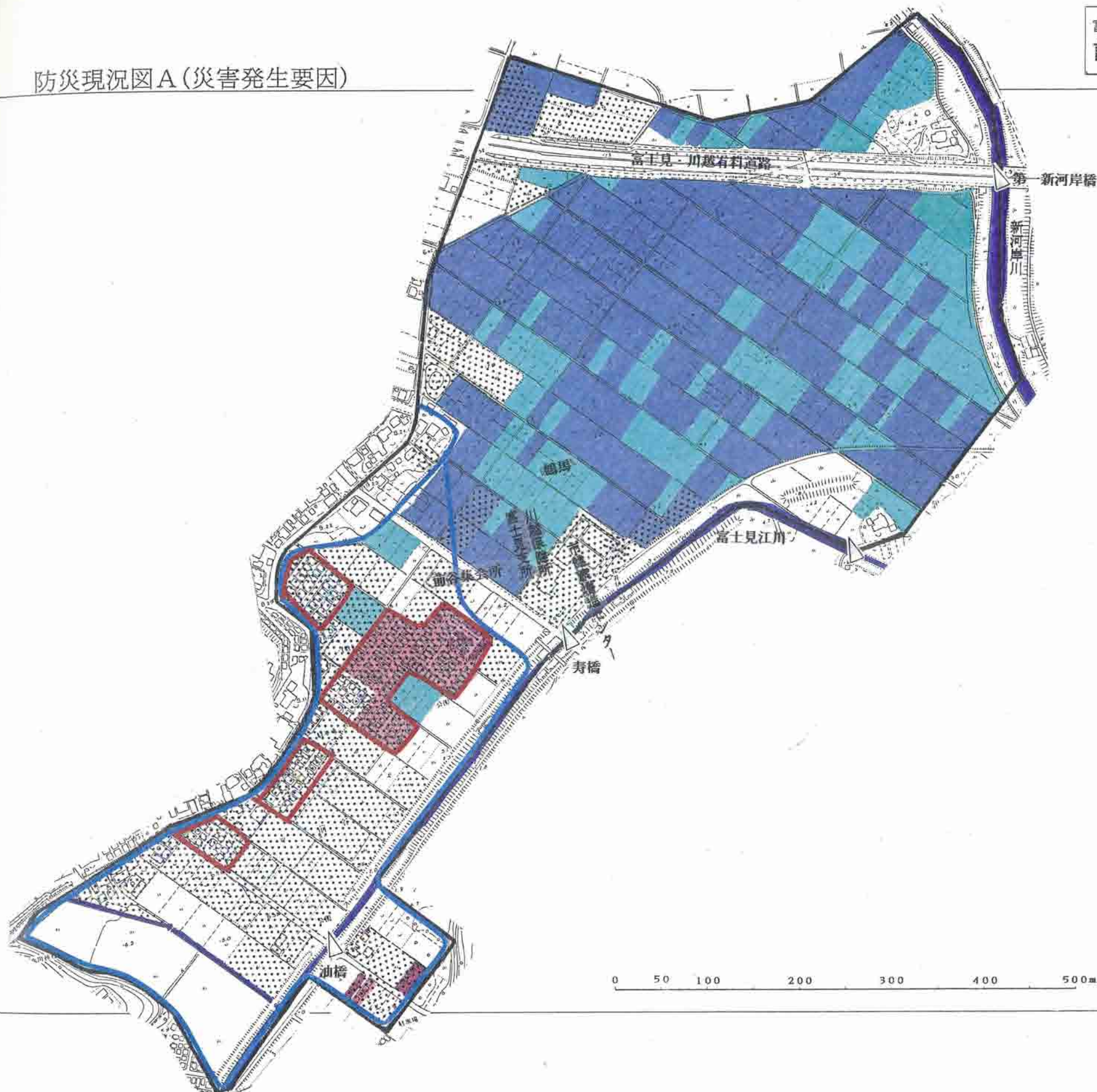
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	富士見江川の越流。 水田地帯の灌漑用水路の溢水。	1. 水防能力	水防施設は、富士見江川沿いに前谷住宅ポンプ場、鶴馬3丁目排水ポンプ場、鶴馬2丁目排水ポンプ場、合計3施設が設置されている。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため、建物の倒壊の危険性がやや高いので注意を要する。	3. 消防能力	建物棟数と比較して消火栓、消防水利貯水施設が少ない。また、住宅地内の生活道路の幅員が狭いため、消防車の消火活動が妨げられる。
4. 出火危険	出火の危険性がやや高い。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は70%と見込まれるため延焼の危険性は低い（ほとんど延焼が起らない）。	5. 避難収容力	町会内にある避難所は、市立健康増進センターだけでは収容力は十分ではないので、市立前谷集会所の活用を図る。また、水害の時は台地上の富士見台中学校（諏訪2丁目町会）を避難所とする。
6. その他の災害	住宅地とその周辺の水田地帯で液状化の危険性がある。		

11. 解決の方向性

内水災害の予防対策は、富士見江川の越流を防止するための抜本的対策の推進が望まれる。本件に関しては、新河岸川流域総合治水対策事業と並行して雨水の流出抑制（「富士見市前期基本計画」1991～1995、治水安全性の確保による）を実施していくことが望ましい。出火の危険性がやや高いと予想されるため、消火栓、消防水利貯水施設の充実が望まれる。避難収容力は十分ではないと思われるので、他町会の避難所を使用しなければならない。他避難所へ通じる避難可能な道路、通路沿いにある自動販売機、ブロック塀の倒壊のため、道路を狭隘化する危険性があるので、これら転倒・倒壊の予防対策の指導が望まれる。

※ 想定震度 低地6（+）（烈震（強））

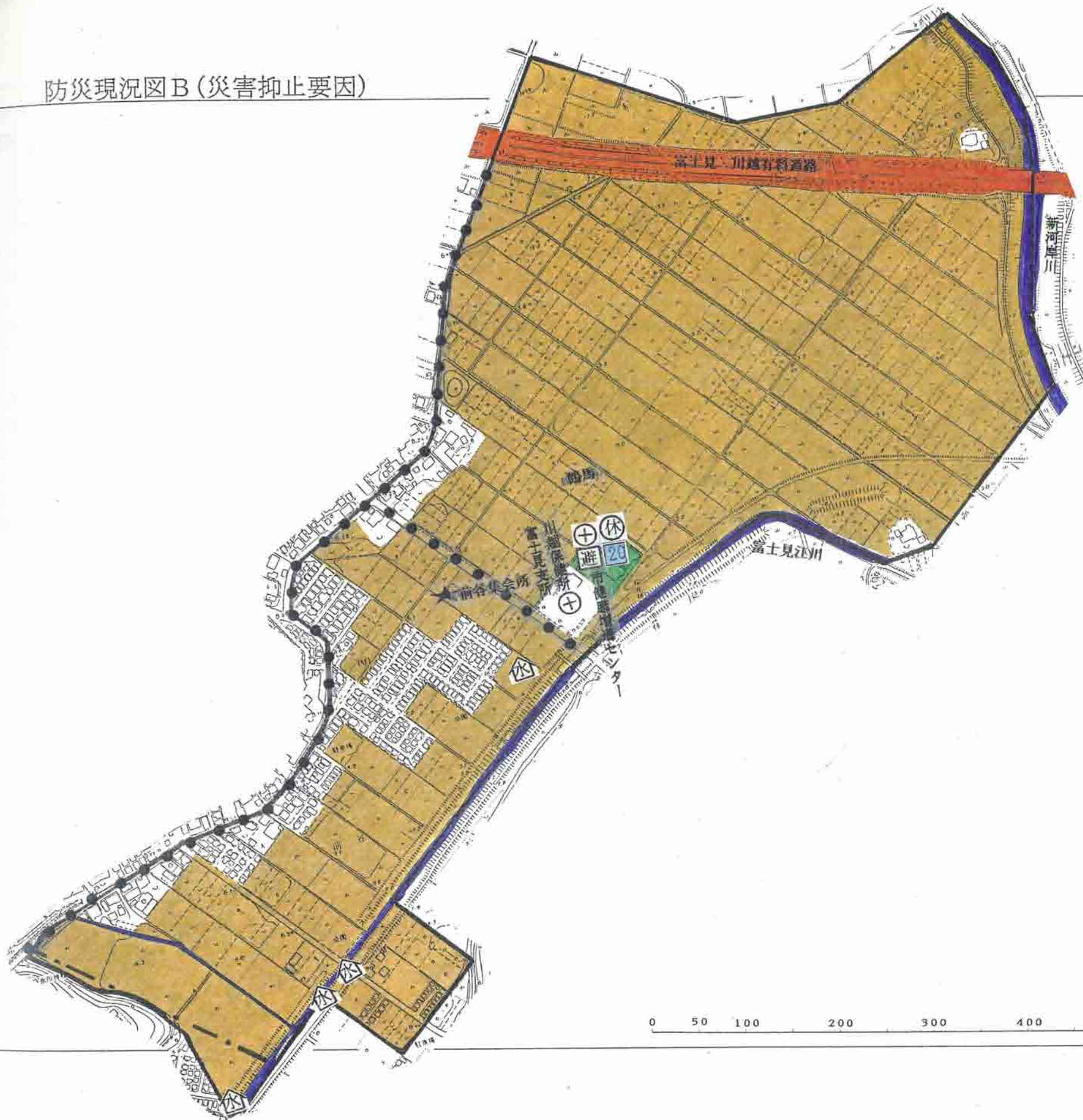
防災現況図A (災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊕	危険物屋内タンク貯蔵所
⊕	危険物屋外タンク貯蔵所
⊕	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
□	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
⋯	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域

防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例

	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑



0 50 100 200 300 400 500m